

KAS

風の谷

びゅう
VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



【2008年 夏号】

巻頭文	P 2	支援センターだより	P 3
特集：地域交流バザー・10周年記念式典	P 4・P 5	発達障害者学会に参加して	P 6
防火防災研修報告/ナウシカだより	P 7	後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町 6 14

毎月15日発行 購読料1部 50円

『新たな時代に向けて』

やまびこ工房が自閉症の支援に特化した通所施設として歩みを始めてから、本年7月で丸10年になりました。開所時の利用者は40名定員のところ29名でのスタートでした。以来、多くのご本人やご家族の方と出会い、支援をさせていただいてきた一方で、さまざまな事情により多くの方を送り出してきた「出会いと別れ」の交錯した10年でもありました。現在の工房の在籍者は41名。居宅サービス等を合わせると、相模原市を中心に近隣市域のおよそ70名の方に支援をさせていただいています。

この10年の間に、制度は措置から支援費制度へ、さらに障害者自立支援法へとめまぐるしく変わり、制度に振り回され続けているような印象もめぐえませんが、利用者の方にとっては支援費制度とともにガイドヘルプサービスをはじめとした居宅系のサービスが充実し、それまでの「入所か通所か」といったハコモノのしかなかった時代とは比べものにならないほど、地域での暮らしやすさをより実感できる時代になってきたのは確かなことだと思います。

当法人としても、このような時代の要請に応じて、移動支援、行動援護、ホームヘルプ、短期入所等のサービス提供に努めるとともに、サービス提供の担い手である支援スタッフの育成にも努めてきました。障害福祉に限らず、福祉人材の確保が非常に困難な時代にはありますが、福祉的マインドを持った優れた人材の確保と育成に力を注ぎ、更なるサービスの充実に努めてまいります。

また、日中活動を軸にサービス提供しているわれわれには、利用者の住まい（居住支援サービス）をどうしていくかということも重要なテーマです。体験型グループホームとして開設した『ナウシカ』は自立支援法の施行と同時にケアホームとなり、本格的な居住支援へとシフトしました。これまで蓄積したノウハウを生かしてケアホームの拡充を進めていきたいと考えます。

*10周年記念事業

当法人は10周年記念事業として、自閉症・発達障害の人たちの地域での暮らしを支えるために必要なサービス拡充を目的に、やまびこ工房の増新築事業の実施を決定しました。

事業概要および目的としては、

やまびこ工房を増築し、より広いスペースを確保することで、利用者個々の特性と利用ニーズに沿った個別支援をすすめるとともに、日中短期入所事業等を充実させる。

ショートステイ事業を拡充させ、親や家族と離れての地域生活体験利用のニーズや、本人・家族のレスパイト等のニーズにもフレキシブルに対応し、支援サービスを充実させる。

新たなニーズと積極的に向き合い対応していくために、相談支援機能を体制・スペースともに充実させていく。

相模原市が政令市に昇格した際に、発達障害者支援センターの機能を担うことも視野に入れ、体制整備を進める。

以上のような概要です。このやまびこ工房増新築事業については、平成22年4月の事業開始を目標に準備を進めていきます。

この10年間、多くの重度の自閉症者と濃密にかかわり、支援する中で培ってきた「基礎体力」を十二分に発揮して、児童期への支援の充実、また、高機能自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害児者への支援を拡大し、名実ともに自閉症を中核とする発達障害全般への支援センターとして機能を充実させていく方向で、新たな時代を切り開くべく大いに努力していきたいと思っております。

どうか今後とも更なるご支援とご協力をお願いいたします。

施設長 中島博幸





『相模原自閉症支援センター』便り

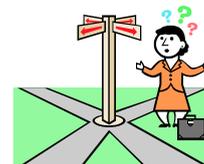


今年も暑い夏がやってまいりました。今年の夏は北京オリンピックあり、高校野球は90回記念大会と、更に暑い夏になることでしょう。

さて、自閉症支援センターの業務も現在は、「移動介護」「行動援護」に加えて、「短期入所」「居宅介護」「重度包括支援」「相談支援事業」等々とたくさんの事業指定を受けています。そんな中、事業の中核を担う「移動介護」「行動援護」等の外出へのサービスが集中するのがこの夏の期間であります。大きな理由の一つには学校の夏休みがあります。障害者自立支援法が施行され、日割りが定着した今では、やまびこ工房も施設としての夏休みは無くなり、夏休みの存在そのものが薄れてきました。しかし、学生時代からの一大イベントといえば夏休みですね。自分が夏生まれということもあって、夏休みには思い入れが強いのです。



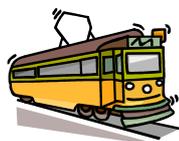
この夏休み、大人になるとお金を払ってでも買いたいと思う人もいるのではないのでしょうか？私も買えるなら買いたいな、なんて思うことがあります。しかし、私たちにとってはそんな自由で楽しい夏休みも、自閉症と言う障害を抱える人達にとっては決して嬉しいだけのものではないようです。夏休みには自閉症の人たちの苦手なこの「自由」が多く存在します。学校生活における長期休みは夏休みに限ったことではないのですが、こと、この夏休みには「自由」が多く求められている印象があります。夏休みの宿題にありがちな自由研究、自由課題、自由工作などは言うまでも無く、絵日記なども自由度が高いですね。何をしても良いかわからなくて、困っていると「自分で考えなさい」と言われ、さらに混乱してしまうという結果が多いようです。ですから、自閉症児者の多くは、自己努力として、毎年同じような予定を埋めなくなったり「今日は何するの？」「どこいくの？」と質問攻めにしたりにするのではないのでしょうか？日割りについては、今でも問題のある制度だと感じています。しかし、やまびこ工房の利用者さんにとっては、施設としての夏休みが無くなったことにより、継続的な日常が保障されたことで不安が減少した人たちも多いようです。



8/2~6で「第11回 自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」を受講させていただきました。その研修の中でも、「自閉症と言う特性を持った本人をどのように理解したか？（理解しようとしたか？）」が一番重要なことだと痛感しました。どんなに知識があって、どんなにテクニックを知っていても、本人を知らないと見当違いのことをしてしまうことが多いのです。私も身を持って体験させていただきました。このように、私たちの物差しだけではなく、自閉症の人たちの感覚的なものや発想力を共感的に理解し、みんなの気持ちに少しでも近づくことが大切なのだと思います。

（トレセミについては皆様へのお礼も兼ねて、後日しっかりとご報告させていただきます。）

決して夏休みが悪いわけではありません。夏そのものをしっかりと構造化して、みんなに良い夏を経験してもらえればと思います。そして、自閉症の人達の「忘れられない脳」に良い思い出を残してもらいましょう。（西村三郎）



地域交流バザー & 10周年記念式典 2008・06・01

風の谷で～10年の原点～

私は、オープニングスタッフとして法人発足当時から10年勤務させていただいております。そのきっかけとなったのがご家族の姿でした。20歳の頃、学生ボランティアとして地域作業所に行かせてもらい「自閉症=引きこもり」とのイメージをショックを受けるほど覆されたことから、その後も何度か行事に参加させていただくようになりました。そうした中、ご家族から「 で××しちゃったのよね」とビックリするような話を笑い話のようにされていくうちに、実際には様々な苦勞と努力が為されてきたことを知りました。あの頃、心底「大変だな」と思っていた自閉症の方とご家族の姿は驚きと一緒にその前向きな生き方に感動を覚えるものでした。それで少しでもお役に立ちたいと思い「外国語学部を卒業したら海外へ」との考えから方向転換、全く知らない世界へ入ってしまいました。

それから10年。しかし、当時の気持ちは変わっていないと思います。今の自分になるきっかけを頂いた出会いと、これまで、そして今も様々な形で支えてくださる方々へのご恩返しのため、皆様により信頼していただける人材になって参ります。(野田)



10周年記念式典

政野理事長を始め、神奈川県自閉症児者親の会連合会会長の柳場様、前後援会会長の中塚様、地域の代表として木下様(元理事) やまびこ工房家族会会長松原様にご出席いただき、中島施設長の司会進行で10周年記念セレモニーを行いました。



開所時のエピソードなど、気持ちのこもったお話が続きました。木下様からは、開所時地域の民生委員を務めておられたため、立ち上げに参加され、地域とのつながりを創り、保つためにご尽力くださったお話や、あるときはご自宅で辞書を見ていた利用者

に一寸躊躇してしまったお話、また他のときは散歩中の利用者にも会って挨拶していいのかわからなかったこと、そして実は今だにどうしていいのかわからない、など実直にして率直なお話を頂きました。私たちの胸に響くのは、私たちの気づかないところでたくさんのあたたかい眼差しや見えない支援があったことでした。地域生活を送っていくときに大切なのは、その地域で一緒に生きて、支えてくださる地域の皆様のおかげなのだ改めて強く感じました。(西村)



セレモニー会場の外では、例年通り、お客さんでいっぱいでした。焼きそばはあっという間に完売、焼きとりと一緒に販売した手作りの特製ふりかけにも皆さん興味津々の様子でした。焼きおにぎりやフルーツも大忙し。お天気が良く、暑いくらいでしたが、うどんやそばの売れ行きも好調でした。そして、いつも掘り出し物目当てのお客さんが早くから来られる雑貨コーナーは、昼前にはスッキリしてしまうなど、こちらも大盛況でした。本当にありがとうございました。

発達障害学会研究大会に参加して

去る8月2日、3日に東京の明治学院大学で日本発達障害学会第43回研究大会が開催されました。やまびこ工房からの参加は今回で7回を数え、今年も横浜国立大学の渡部先生のご指導の下、稲垣、鹿野がそれぞれの事例をポスターという形で発表してきました。テーマは「不適応行動への対応」ということで、他の施設で働いている方々にとっても普段から取り組んでいる内容だったからでしょうか、当日は多くの方々から質問や貴重な助言などをいただきました。また、他の施設だけに留まらない学校、行政、研究機関などからの発表は私達の支援にとってよい刺激となりました。

私達は、昨年秋ごろからこの発表に向けて準備してきましたが、今回は特に記録をきちんととることの重要さを感じ



ました。発表のためだけではなく、何か問題に突き当たった時にしっかりした記録があれば、それを元に原因を推察したり、他の職員と問題を共有して話し合

ったりすることが出来ます。また、記録は毎日の積み重ねなので、書式についても目的のはっきりした、誰でも取れるわかりやすいものを用意することが大切だと感じました。

また、「支援者養成の現状と課題」というシンポジウムではソーシャルワーカーの不足ということ、さらに心理、教育などに比べ福祉分野に人材が集まらなくなり、大学などその多くの養成機関が定員割れしていることなどが報告されていました。厳しい現状が続いていますが、今後も学会に参加することを通して、支援のレベルアップを目指したいと思います。

(鹿野)



《ボランティア募集!!》

やまびこ工房ではボランティアの方を募集しています！私たちは、たくさんの人との交流の中で、自閉症理解の輪を広げていくと共に友人、仲間といった、人と人とのネットワークを広げていきたいと考えています。自閉症ってなんだろう？何かやってみたい etc. なんでも構いません。思い立ったが吉日！興味をもった方はまず、お電話を！！

- **活動内容：** 散歩の付き添い(15～45分)
- 作業準備・補助(他に空き缶つぶしの補助、ウエス作製 etc.)
- 施設の環境整備(窓拭き、草むしり、建物内外の掃除 etc.)
- 刺繍製品の仕上げ(縫い物)
- 自主製作品として販売しているスエーデン刺繍の製作準備・製品化をお願いしています。
- 完成した刺繍をお渡しして、ボランティアさんのご自宅で作っていただいています。ご自分のペースで空いた時間に行っていただけるボランティアです。
- **活動時間：**月曜～金曜の9:00～16:00 1日でも1時間でも大歓迎です。
- 製品作成はご自宅で行って頂いてもかまいません。

お問合せ先:042-760-1033 やまびこ工房 担当:稲垣・粕谷までご連絡ください。

防火・防災研修報告

～必ずやってくる震災に備えて～

平成20年3月6日に、特定非営利活動法人「りとるらいふ」理事長、片桐公彦氏の講演会に参加しました。氏は新潟県中越沖地震の被災者として、震災時に障害者福祉施設はどうあるべきかというテーマでお話をくださいました。その中で福祉施設として備えておかななくてはならないものは食料ではなく、ネットワークだというお言葉がとても印象的でした。

コンビニの復帰は早く、食料は選ばなければ手に入り、また電気の復帰も早かったそうです。しかし、利用者の家族や職員と連絡を取り合うことがとても難しかったとのことでした。災害時には電話はつながらず、携帯電話のメールも届かなかったそうです。被害の少なかった職員が施設に集まり、その職員が直接利用者宅を訪問してまわり、安否確認と共にその時のニーズを聞いて対応していたそうです。しかし職員間の連絡もとれないのでは、なかなか安否確認・ニーズ確認共にはかどりません。そこで活用されたのが、施設のブログだったそうです。例えば職員が、利用者について「さんの安否確認しました。ご自宅にいらっしゃいます。」「お家の片付けの際、さんの見守りが必要です。」等のコメントを書き込み、そのコメントを確認した別の職員がかけつけるというものでした。また、ご家族から直接要望を書き込んでいただくこともあったそうです。通話・メールはできなくとも、携帯・パソコンのインターネットはつながるのでブログは活用できたとのことでした。

研修から戻り、さっそくやまびこ工房のブログにも災害時用の記事を作りました。災害時にはこの記事に安否確認・要望等をコメント欄に記入して活用できるようにしてあります。この機会ですので、ぜひ関係の皆様にもやまびこ工房のブログアドレスを登録していただければと思います。

アドレスは、『 <http://ykoubou.blog.drecom.jp/> 』です。



ブログ内の「コメント」をクリックすると、このような表示がでますので、表示された文字をそのまま入力します。この場合は「eC4cw@」と入力後、自分の名前と記事を入力するとコメントが載るようになっています。非常時にすぐ使えるように練習もかねて、どの記事でもかまいませんのでコメントを載せていただければと思います。

以上のような「りとるらいふ」の事例を参考に、福祉施設だけでなく様々な職場やご家庭でもブログを立ちあげたり、アドレスを確認しておくとも非常時に活用できるのではないのでしょうか。(粕谷)

ナウシカ便り

先日某グループホームにて火災が発生し、死傷者が出たという事件が報道されていました。

このような事件を二度と起こさない為にも、常日頃、防災・防犯には十分配慮していく必要があるかと思います。

現在ナウシカでは、毎晩ナウシカ周辺の見回りを行っています。

可燃物などないか、不審者はいないかなど安全確認に気を配っています。

もし火災等起きてしまった時の事を考え、これからは避難訓練なども計画して

いきたいと考えています。利用者の命を守る立場として、徹底した防災・防犯

に取り組んでいきます。(村田)



後援会のページ

風の谷後援会も10周年

「やまびこ工房」は、平成10年7月に、長年の親の希望でありました自閉症者通所更生施設として開所しました。その後、平成13年には、グループホーム「ナウシカ」(現ケアホーム)も開所しました。この2施設の開所にあたっては、親、行政、賛助会員、地域の方々等多くの支援者の協力があったからこそ実現されたものでした。また、開所後も、支援者に加え職員の努力もあり、今年で10周年を迎えることができました。多くの支援者、職員の皆様に感謝致します。

今後とも、自閉症児・者、その家族の充実した生活のために、一層の施設の増設、業容の拡大を図って行く必要があります。また、相模原市は平成22年に政令指定都市となるよう計画中であり、実現すれば、福祉行政面でも、より市との関係が近いものとなります。

風の谷後援会としても、より良い福祉環境の実現のために、微力ながら力添えができればと思っています。今後とも、皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

後援会長 鈴木秀美

【更新・個人】平成20年1月15日～平成20年6月18日(敬称略)

(相模原市内)

小松真弓、藤田明子、清水徹、中村達哉、萩原春夫、萩原莉恵子、篠崎繁雄、山口彰二、鈴木秀美、岩崎和夫、小松克明、山崎テル代、斉藤敦二、小針和昇、政野光廣、堀田脩二、井上進、谷口博恵、川島和章、小川英治、川合義正、鈴木フミ、大久保敬二、芳賀初夫、井出章、永山明彦、小原マサエ、辺見祐二、佐藤清一、小林義明、原徹、津田英隆、内田まゆみ、鏡京子、柳井晶子

(その他地域)

北村恵子(逗子市)、上城和子、佐々木継生(北九州市)、松岡清市(弘前市)、舟部光徳(町田市)、下田浄(所沢市)、安藤紀子(横浜市)、酒井艶子(川崎市)、政野大(茅ヶ崎市)、上城洋一(座間市)、大久保秀俊、渋谷建子(秦野市)、成瀬富子(平塚市)、中島敏晴(札幌市)、藤野孝夫(厚木市)、奥平彰二(伊勢原市)

【更新・団体】

相模原市やまびこ会、伸和トラスト

【ご協力】

新宿自治会、新宿小学校、ワーカーズコープ・キュービック、(有)伸和トラスト、ドゥ シルフィード、依知の会、オカリナ上溝、相模原市ボランティア協会(加藤、林、後藤、百本)、ボランティアグループきずな、木下謙三、木下昭二、中山善夫、小針絵美子、柳場秀雄、宮田加奈子、他大勢のみなさま

ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345